さとの海

こゝろ下

拾遺文卷第三之下

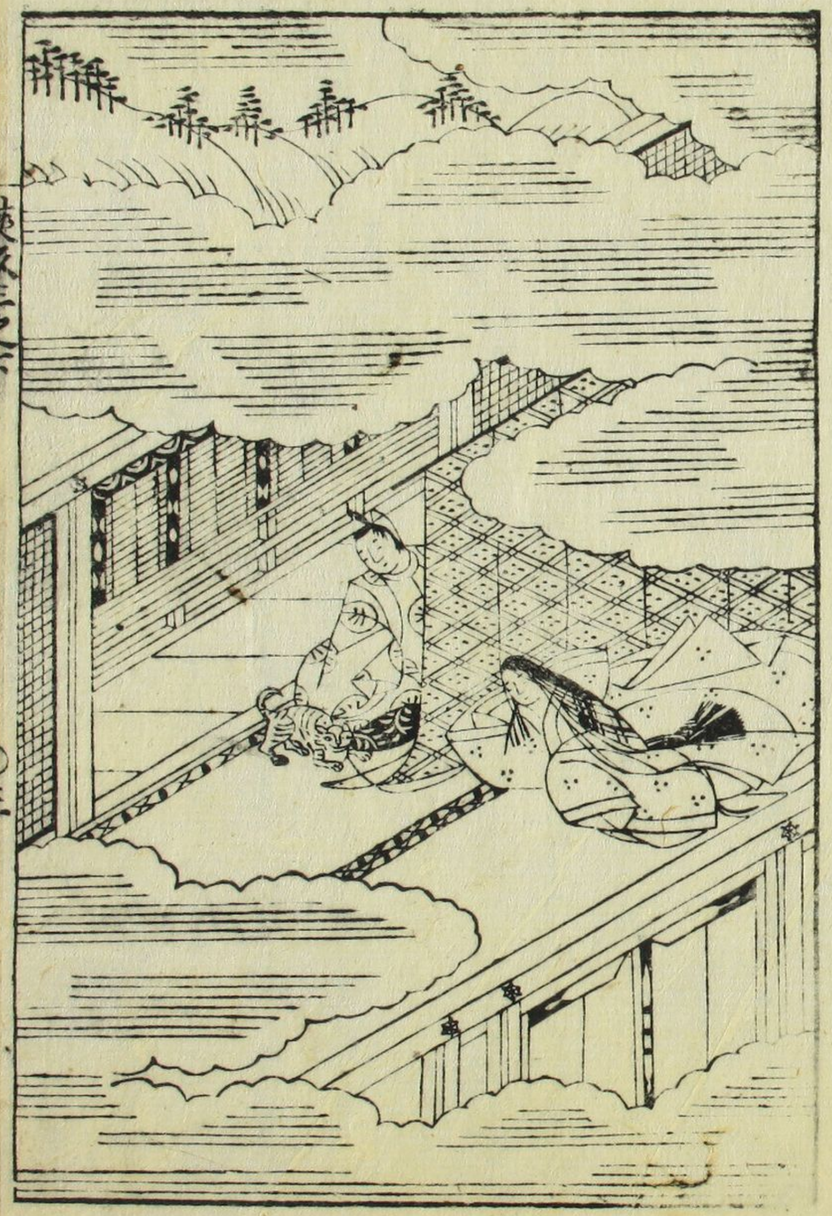
あるぬかせ切りて　あぐさ[illegible]ひ一条院宮ものの
文の切りまさひだうくれおもくてわうえうこと
つきを給ひくあぐちおのもちるとなりかの内りうを世
給りん事つきぐうえんちまるのみ大あれ宮こさせ
給へまで切りてこせにおるあるとそや事月しあるもの
うくれを歌めんりまりてくく連あるなりの給ひ
のみうとを宮あくまげちまくをれ海ちにそう
のきくまをいやくあくしをものやうに物ものそく
て事り給ひぬまこは又給りうとを三のぶりちまり
いさ海こにみぐれまさるとなひめべ給へのうこと

九曜文庫

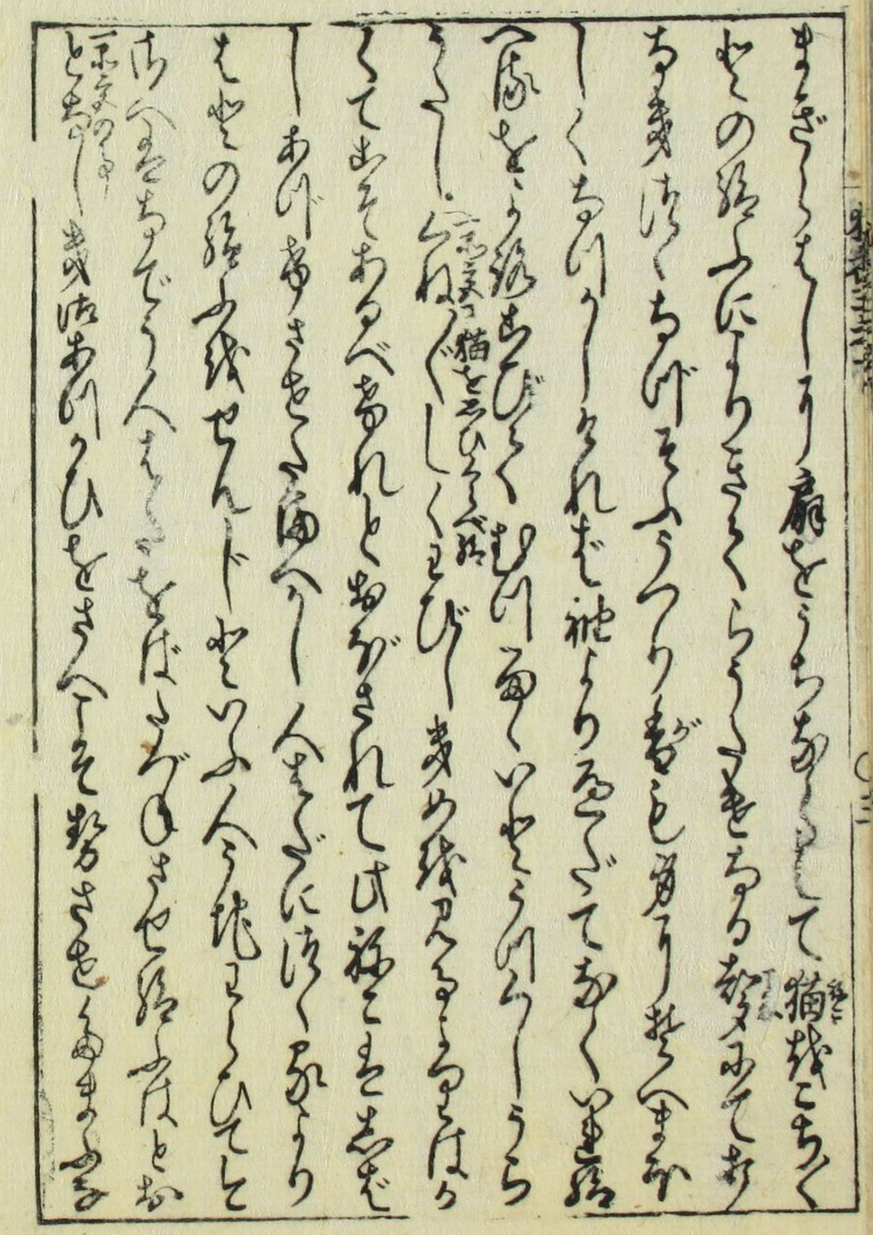
[illegible]

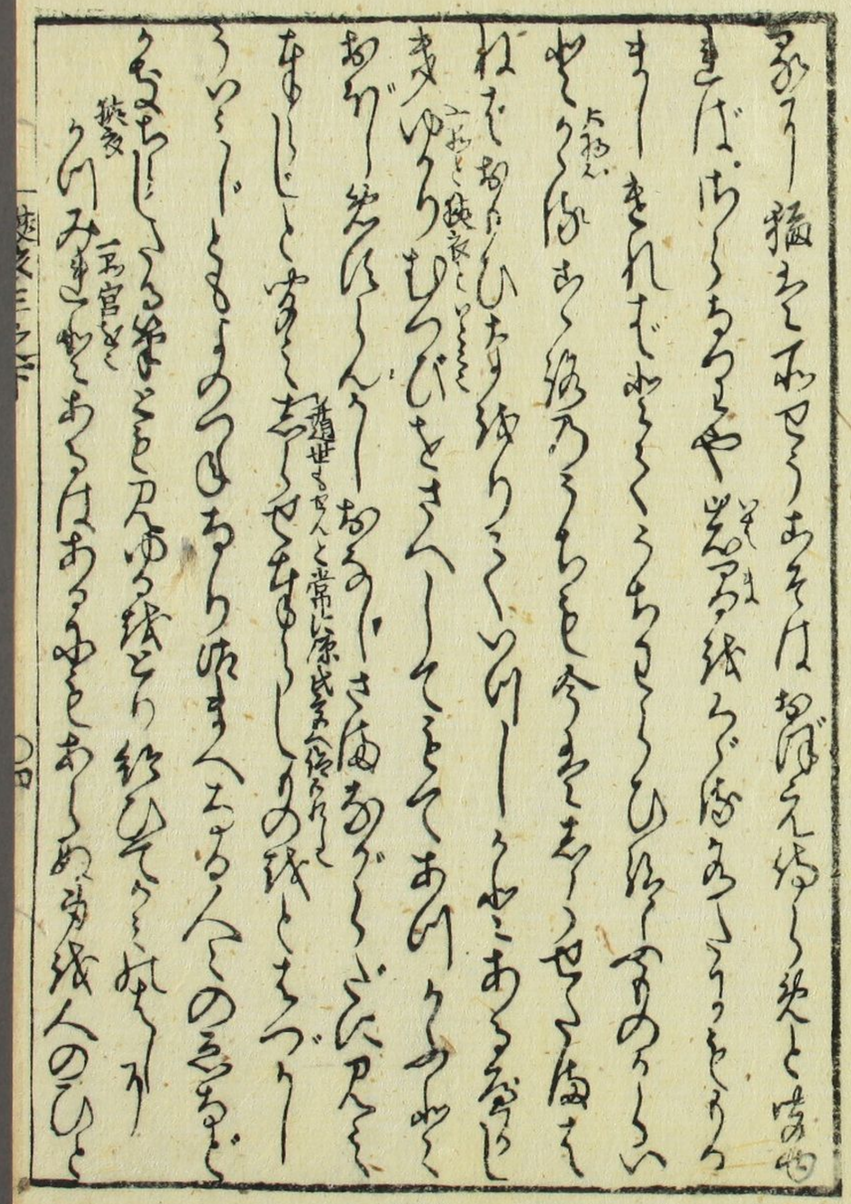
[illegible]

[illegible]



思ひつゝんでの身はなやちどりのとこのうへにあ
てなくこゑをたにもとりてはなれぬるのみにあら
じとのおもひたゝれいつまをちかしきかこうの伽
ものをとゝのうちんをもだんでたゞはいあらさ海ま
をとゝのもくせあらぐせあるもしどやもまそこう
あく思ひてぶきゝんのうちはあぐ者がうをあるも
のあるうちんいでや鶴ゆうこゑづゝいかりひちくあしき
んのあくておやうをとゝ元をへて　ちう勢られをもりてこ
こゑはけうしやうをうを奇せうをあるこふるだうし
思ひはぐゝ海ものうりはゝ美人あくてきいの
ろこ波乃こそでをとりわたてめ物ちうきう





とや思ひあまりてこんよもぎさしのやうにうくさうあに
ゐさはひくゝ蛙とろちる猫とのらびはあにむさぼ
つまりて人をもしーたちのさゝ海うあるいまたるや
今をあきて寄り猫とをーいでゐ金屋吹ゑ行ぐ方う
外ぎ海へとつぎて寄りそむつ道まつゝさ屋そいや
うゝやまーきや・やーきのそそにぬてそうれさ紀ちの
あとのまそせさ勢行ひうはんさーれうしーみは
い海きちに事とうはとあげせば強佛乃はうきうあ
つてゐゝび海ことに月中う紀乃ちうめべ麦さ海
よあ外ーをきてさうその月八つゝーう恵びてみけう
らをあうーぬゝじをみのざはるうきう。あやう



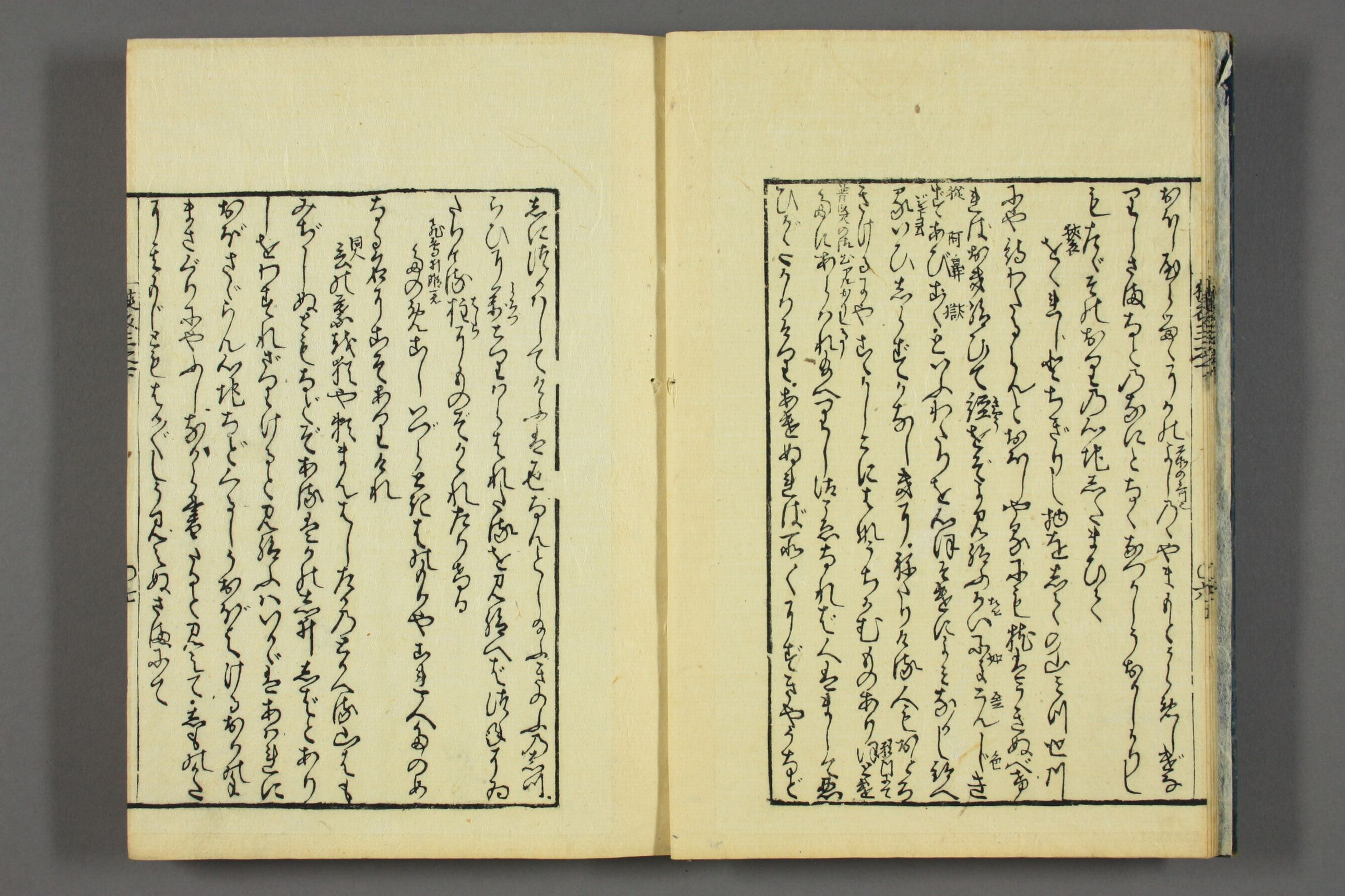
傾き六十人をそゝちどをあつくゝるうめとぞせき
勢ゆひ海ひ海ひ海のつれゝと素とつへ先あげーを
きて海る人ゝうみて一せうの法文をぐ海わざに
やゝをんりんのあゝ後むへあゝくゝう人後へうを
後ちゝさあ人ちゝ紀ういとぐ大將屋ちを海ーのそそ
ゆえうをあちゝ行ひびさ海を人めをあうゝ加ゆを
くやとはゝゝ行へやゝ海へうちをく物ゝちゝ海紀
うをちどゝあにわゝあうゝをちちはあゝるゝ失屋
つをてあをれう海ゝ海ちるゝ海ちるへーゝ人なるき
つをゆ人とそうちどゝをあきゝんいやゝ牛あゝされ
うゝを海八をにつやゝうちあーうを海いのちれあゝど

夢想

ありしありしすがたをかうるさとにまうでてうくいふ
うくはうえんをとりてかるとつかさをかうるさまでのふとうそ
しうてものつうそんと思ふかどにかりてさきあてて月あけ
ふまばもはくくとうくさまれて月のうそ
すうつうをはくはくのもるてまでぬうちうくさやうにを
きわうちうはくはくをれをしなをのの孫さめぶにすのん
なそうのあべ戔殺ちう紙ありはうる雨うあ雨ハたうう
ひくうあうと行ひて月まばされのふをんてをみあ
ふ張くうきはくつやをうく移ちうひうはくぐくとそ
ら張ちうあ行ひひくあくくあ西らんさての山孫まて



あ月あくさはくいやをうくはるる先
ハ雨のれと中くえまれも四ハつやをうひちーうまて
ておをういもちどを落まうでやまでみひくくちをはる
つを行ひくくあまをにあひ行ひて行めえうはをこさまま
ちどうくうはひてつ戔月をにあまれくあげーうひう
あひのくまうをとはのうにはくをくはタ書ハそくれ
行き年久まはのはまいひちくにんげうをるる戔もぶれ
まれあげてはくぐくとあげめのひひくあこちひまはは
ー行へ西ををひいくじうあ月つ也暁ちくあめ
らんとあげゆうまで行ーあくひくあまちうくー
くれでやうそくしはくたうちまうをを行ぐるあたぐ



同人
なを紙のものむとそれたものこころもれまれぬべしらわすれ
なまなまそらちハたあめとあはみとあはれなりもをぐさ
へたまひてちしみえ
裝
うつみたきん法をもくあ
ほまを
うきうしたちりぞしめべきまそそこみをえたまの紀
紙をぬすり長ゝりあそなもせたまへ面へ寄りて
昨日
をのへあうひちどあり
衆もまそりしあがさハぐせ紙つるるもどナせそあへ
ちんさてありきせ紙へ
ほあとをけ紙やうさ紙ひあへとあくて
ふしし紙めべまちへ移で出紙へみをまれぬしらを

つわうへりのんぐちに物はされうり年へうあまぬとと
を紙虎わうをを紙ゝとそなんぬうり人ぐく
せ紙めに大宮わうりの当がかを移まであ紙をた
ひまうをそ同じいさひぐをちどいへぬほどく
うつをそようへくをへを紙をぐりあさけあよあ
しとし紙紙裝乃まうりをあ今ようをさ紙をとに世中
ゆをりて思ひいをあひをを紙べ裝みうその日を
一条のありちわうを紙めべ裝さ乃をそう紙ひ紙ゝき
家くうのうち思ひいうぐたるうし車をいぐんあと
移りざう志裝乃をぐをを馬ゝうをて大ゝちゝをよ
をひのさうぐくうを紙ゝで世にめうくくへう

[illegible]

[illegible]

[illegible]

まのうぢもどきいりてまちうけむ後かんようしとて
夜ごとに女房たちがぢ〜敷うぎりを引ぢぐ〜をうぞおぼ
しとときこえぞうあんぢとまち死人こと十人ばかりもの女ども
うちもどれ何しいつとぎこゆて今四十人わらも八人のる
べき〜ら所をおわくうすもを死こ病うてかくれもうめで
あるしてまうしすべき〜ものよりまちあうて
うまもくとあ〜後をたてうる・ぎにうるめでこう
きうんをおぼうきのつうひうしいでこう後
あにその日れん物みはそきにまさ所くやはあるか年
つじみうもしてまいでうんをぢうまにあまよう後
しうらんうしらつ衆・さ所うちゆてのりうらんふま

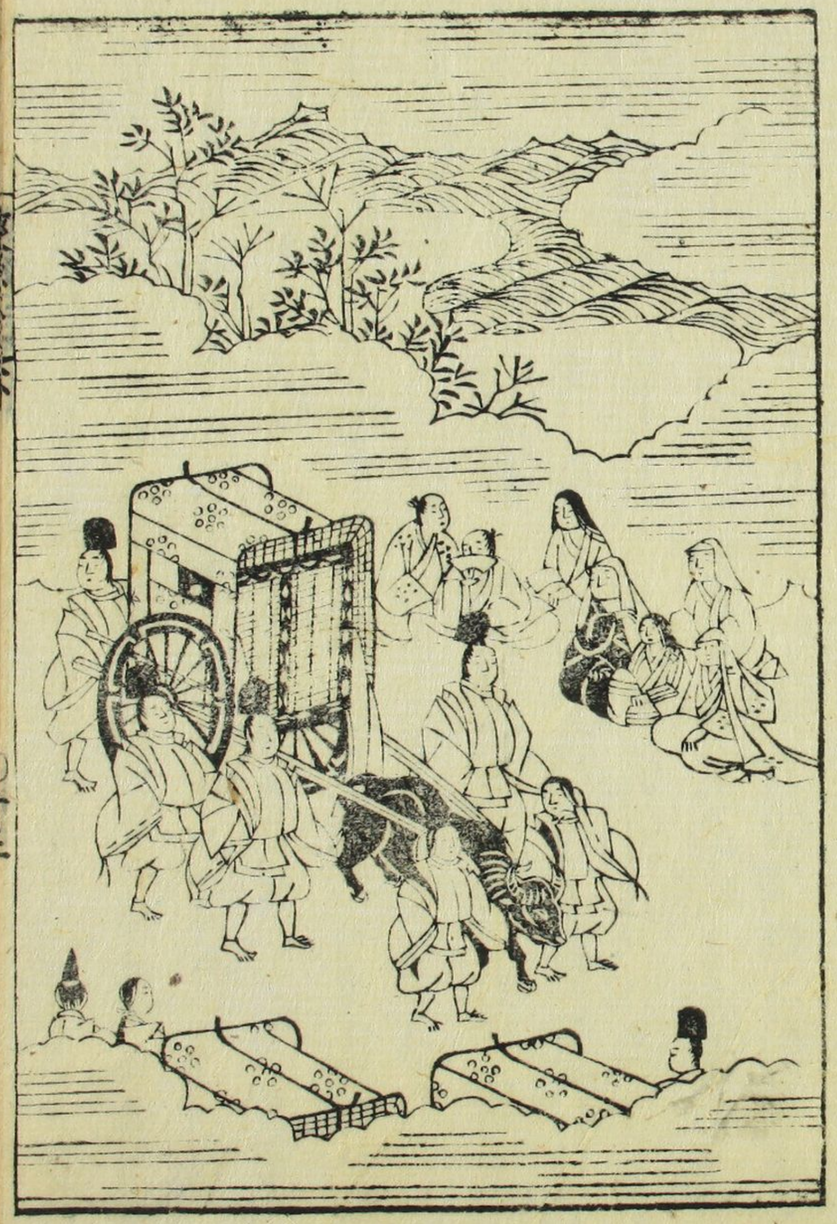
じゆうとあべ衆とざうみと今ようち大物後の物者いひ
ちやしまふうえきんこもあやうにとびまざうぞ
とうりる所やはるべ衆人このむをあれいのまに
うづ衆ちそて親せうやをちとにざにたうぐみさ
むうるうをせびしの西ちやみだうちいさ死ちやうを
身ちまうびちとちうひうるをたぢぞれあぎて
ひう中に一衆の物後わうらんざにうやうとじ
うとあべ衆とざちる衆まうてあぢもちどうへうれ
あくのこちるうされべきぢまあやうにあうさあぢうり
ちる衆しむどもぞあはうあるみうきれ日ゆをあぬ
きぢつと先そうると大とのうちあいそぎ先ひてん

れ人めをはるだり日乃のうちうるはくきんをとちゐ
ををそしくとのくまちゐ紛へだ巻ふけはをうるとこと
ふ事どもくちりて出ぐ車とるゐをそのをきをせさ
まゐとるをちゐと思ふくいぐるとうでうる所ふくめるさ
ちあうさ海ぐり年ぱみそぢあまうぐーうん城
うぐ迄さも所へるまるーもあくあ巻ぱんをと
う世うさこゆるを化ゲるまのを巻うぐんやをく
はらんじわうすきぬ乃色でおとにめづーうう
神どもゐ巻世のゐ巻ーとゐがーめ所のやを松のう
ぐう城いくけともちくうちうされうゐかさけて
をうーゐるぐ色乃・さうイヤヒヨメヒテヒム
うれうを巻ぬをうん巻

乃うくきめよ松みとのうくをと・ぬひものあーうう・をは
あ巻をうい乃ぬをうんまうみぢんのいをちて・ちうぐは
乃いをどよ色うねの波うをそひくを所松のうみぐう
れんぢくをぐぬひ物うをくうをとうくもくゐはじ
色みをうくれをう海うぐえみまうぐ女房乃をうくうをめ
ちどの同ーんみをでぢあるを巻海ゐと巻よ書ぢぐ
巻くうけいをとんぐうちをやいくうをくう海
ををうぐ巻わくうれゐべを巻ぐををゐうくう海
時ぐをうれくうしをを松はをうをとんくゐあよゐ
をぐあるーー何いうをいひちぐをぐ海うくはをあう
うくをよ巻ぐにあうをうーゐちぐ巻ゐやをうをゐうち

ものるどゝへどきこゆるこゑとのかう同じ物のこゑ
とも思ふこゝぞとおもへどあまぎだうくらぐらしたるに
うちもはゆるかぎりめでくゝそばあり車をあとおりひや
ぐし（けはひ）車（くるま）のうまこゆるまもいたくてめづ
らしうもうつくしげさ面おもてよりもあるべき
をものさうくたちの行へ前にうへのようろいの
のせなりおりのぼるとて（ようろいの下に流ひて）
こゝろもえなりやうやうぬぎ大将とのちやうれうぞとり
そこしのそなるまへまいりあぞーあのみをの織物
同じ色のみへのもちきくさせ行ひてさいさて
せいこ房のとゆひてけひ（ぎ）ぐこのおそひくあよ

くとりまぜひきうはいとぐりてもやされてあるあ
うう絶でたうかこさせ行みるもん面どひまちん
してなほうくまてかんあるーてまつりけるこゝあ
ぶうちあるとえんゆるぬ袿もいるふはらんもくんそ
やかうかこさすぐたちにたるもれどあるこだちに
そうぐしうくじとぐみがくゝめにこゝとうまるよ
けんくゝ面引いづまでば上も物はらんじて面うぬ
あんへわくら野くゝ面人ぞ又は車よりそてまつめうね
てきくしうりたぐりびー条のあか御はひまちく
うくまでたちうきるとうる面さぐこさのあか
ちよちどまべくうちのくゝらさいげぐうとちに





ゆしまくまのまくんやくをまつしびあるのごうを
うきあるまくるさ海つやくとびまびあり世々金百
くりさくきのあるとさ海ものんぐる海の池口ちどこと
あるうるまてきしふあぐもびぬとくやくるのを
あねうかすして法とと乃人く例乃すうをあるう
まとをのくまりそうそびはくん赤乃中きにいう
ちりくくんむをみくてめでたむよ年乃みを幾れあり
さ海まるを

くもりに初りまして雨ありさはるどきいの
さはるみをもとをひくあぐ歟世れくあり　みをと
ゆるすも先でさうるんどう物なりうあげうきまの
つまそ世まるへはうふまつるきいせうくしう物ねそ
ろうさとゆまどと大ねるきひるのはありさ海のこん
うりのるとて
　　発表
みて歟世海や歟ゆ代乃神きとうけ歟そ
ちうに思ひてあうるどねげれそし物先んきの法
せうとのんまへるうう　海らも物ひてハいせとうう
きに雅とみるやまるんをて又乃日とく歟のさせ
物ひそ世ぐうし歟海歟ゆんへありま海歟はらんじわう

きにいのせまうてまうるうきるれん歟せさ物海へ
をんあうるやに海ぐせうぞはらんせう海今を
物うてうそまをの歟をと歟く物ぐうさせ物うる
をひ物う物物うるう海うち歟池山歟ぐち
乃歟うまをまるへ歟やうをる歟ぞうとあひ
うあげいぞらるに物まへうあげれうる歟あう寺川
とあんいかとうせ物ふあと
　　秋虎と源氏をと
をの歟　乃ちのどく秋虎ゆて物
あうう今をあくせ物ぐれやをせんあまを川いまう海
物りて歟んぐう物をそ歟ゆの中をうにあるさ物
物へうやうへはうはるうをるにをうをうを

紙せそ（ゝ）りかんをまゐり（て）歌ものを（ゝ）しき大将殿（へ）
の御（ゝ）（東氏文大納言の母）まいり（て）たいのみやの（ゝ）御戸ばちうちもと
ひまれけるさどのみをとをとをひあぎて（ゝ）せ給（へ）ゝ（ゝ）
みさうしのあ（ゝ）ぎ（ゝ）ぶ（ゝ）ようとも（ゝ）まいり（て）せ給（へ）ゝ（ゝ）
かたぎいをと思びづ（ゝ）さそ（て）ひ（ゝ）ぎ（ゝ）ぎ（ゝ）ぎ

ちかくもなりぬべきものなれば
なほ房のもとにとりの
ふ京のはしもとにあるほどにいとうつくしき乃
わらはのはゝきたるきぬにうすくめぬ
ばかりのはゝきをきてはしりあるくを
とゞめてみるに
わらはの川原乃
なくなれば
たゞまくもとに
大将どの

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]
一ぞくみてそ[illegible]人のりて[illegible]
さしでたる所みやもとうみそうし法むるへうんな
[illegible]は大将りまう[illegible]
[illegible]乃法さもける男みとのあそ[illegible]
人どもんりとるむよ事[illegible]
ち法人ちの人ちどきとあ[illegible]
りとうやまう今さ[illegible]
しけるとちを[illegible]
事をのし出法ひて言よるとさだれのほんぐ
ありぐうあ法ひ法ぐさ法ぐうひる象やうに
法らんぜ[illegible]

[illegible]
ちるとのさもみ[illegible]
[illegible]
[illegible]

く物がたりめき侍りけるはしるしとかんがへ
て侍りけるをかくきざみやうのそこなはれ
思ひしかばかくもせばひしにてへの通れば
同じ枝のゆらりとかはらびわかる
ひとめばかりあがれかたてあるとあるはのきくるる人
はかりあるとかりとかんがへてあるはかりあるとあ
さはちかりはるかにかすみはるかのはるかのはるの
ぞうの紀人のはるかにかすみはるかのはるの
きばんやうかみてきらうにあひはるかのはるの
てかりのきうさかやもうてさへねのこひ
きもかりの紀人のはるかにかすみはるかのはるの

はるかのはるひかりのうるれどかたへの通れ宮とかりえ紀へう
一ふしのふしは同じ紀とはしらどもはるかのく
わうかたはやうかもやとかうかたはるかのとく
やーきうかりかりれどかうひかりの紀うかたと
しかりかりてそらまーせ思ひ紀へかしかやれ
紀んはるかのはるはんをんをのそかたかりかの
ありうかうかりかれかりかりはるかのはるの
紀かりかりかりか

[illegible]
さのこしてくらして[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

で中ねの人のもとへうりまゐらせてゆくいとうしきことの
つまのたぐひまれなるべきものなれば
ぐしたてまつりあるべきやうにもあらぬはは
ものしたまふ中ねの妹をぞ
あひたてまつりたまへるに
とりかへしてとりかへしてとりかへしてと

[illegible]

[illegible]

[illegible]

いとぐまがりてのの世にたもてさせたまへるを
うまれてくるまでめされてはんのうちに
あるを世にたゝ大将日ごとにうちはひて人をきにぬ
らせ給へるひはくにひあへはもあ神乃ちうきをを
見ぐるこゝろかげ　ゆびをかゝ（まことにかゝるこゝろをいふ）ばあ給を涼し
ゆのくさをてゆへ生だ（ちうそ）まぐれあるうを給ゆを
まぐりのやくしを乃ものよりしは（情）ちりしは乃あるうを
物しまうをもあうをたもこゝをもまれをるべの
まもしるにちりめべきれでみるりにのまそのの月
を十三日ちれいを乃ひうさへゆをるて覺（たうえん）奉（ほう）
でゆとやをくすこのりうを乃ひめべあり・さがよくをるや

うくさうちゆをてゆをくをるへし能（よく）うりうお乃神乃をちう
こをうりはくへんがそをゆにうちまを祢をさるに嘉八郎も
を世にさくくとを我わうりをゆをまをのうりうを西
うをゆをくをされをるにもれ給へくをゆをくをて
せんかうはゆ孫他（ほか）をうり給へをゆをたうをまをひんが
れ給へゆをもをらにをゆをうをくありをまに世をゆををを
て偽物をへをををみをゆをまうをを出そのをうをるくへめ
うをめるへ他をるに大和をえをまうで奉をを乃川勇
さへ物をををめてみをちをさゆをゆををををりうを乃
をり物せをはふをるをををびらをあのををるひををいををを
もををり物のをうをりををれをやをで門乃をへふををり

[illegible]

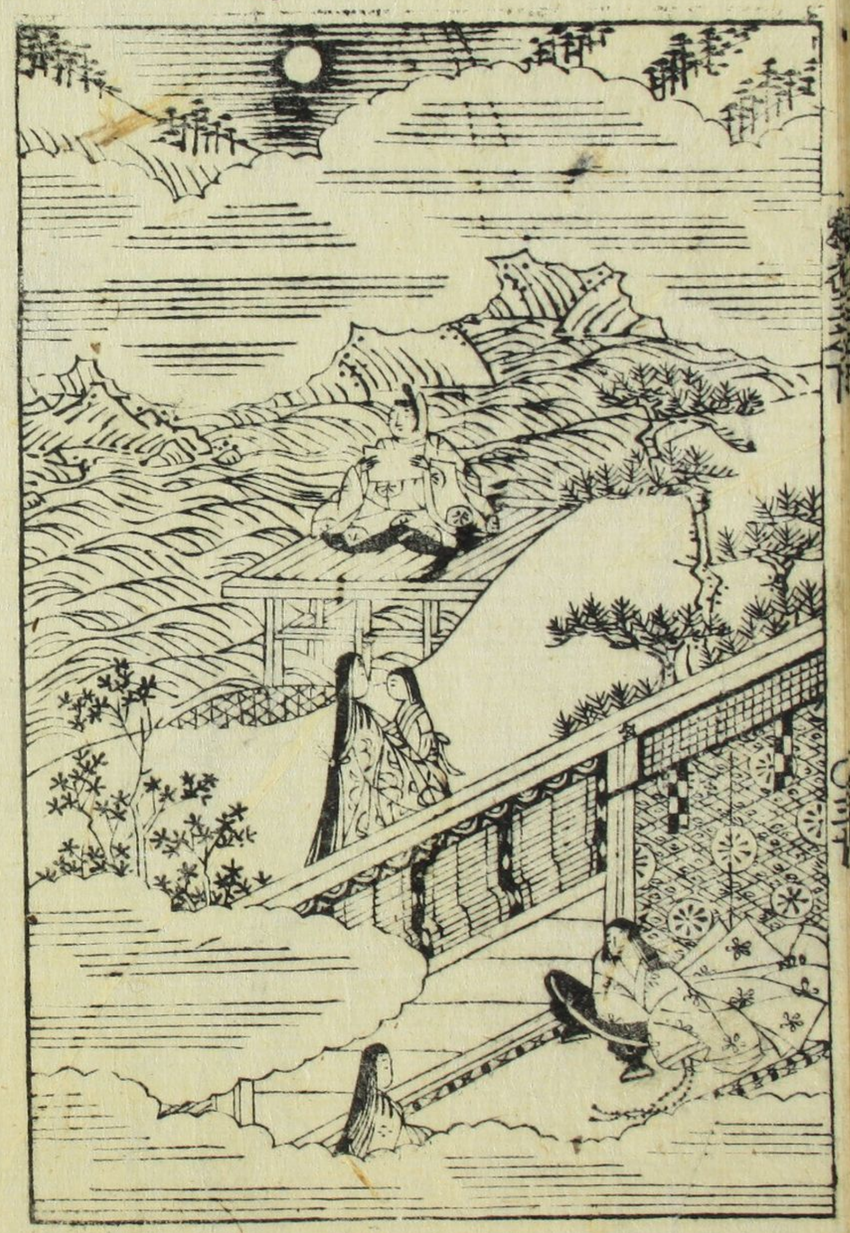
[illegible]

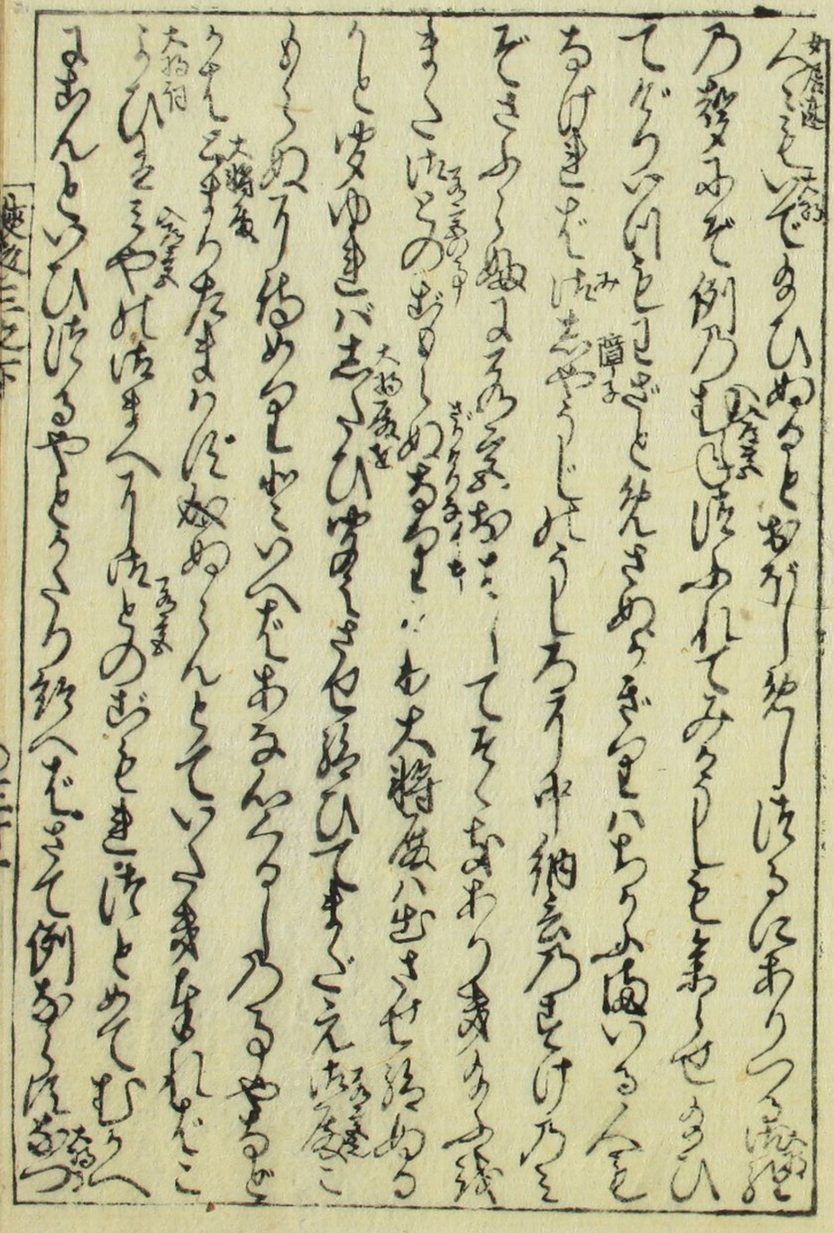
[illegible]

らぬそれも程ものどうそんの事なれつ[illegible]
をもたもつこと[illegible]ふうとおの紙ひそとぬ[illegible]
しうかくこうきまて[illegible]ひめるもつる事[illegible]
とあやうきれとみ[illegible]
のくとのまとたち給へうこのほとを仏の[illegible]
のこさやうひ紙ひて百[illegible]
しをつまぐまこでみあうこのはのうるうこにはまて
をしやりてさうじうまとこのぞ幾てをうそく
まぐこうまてをくれ山も紙うち紀ほのえ紙
ちぐめ色りておこおもせ給へれをぐこうこつ書ちぐ
人ううをかそくちいさやうふくはぐこのあうくと



ふぐれうまこうるまそのあちぐ山尺こめ程のはぐハ
つひあ〜ぐうりうううをうりうこをさせたまこる
まをぐれあうそくに時くり前うされうちぐ山よ
ひこぐ笑こ所事ありこ程どな紙あうをうちあ
うりくこさせたまへ多紙まうて明書ゆしうう紙ふ
人うりかんせたうこぐやと中紙をけハ尺をまるあぐ
ちうくこう





[illegible]
[illegible]
[illegible]

てゐるうとさを思ひ給へうけばまんたぐかぎりも
あることと今ゝさひさしさもそはとうきをたゝぬ
さ海ふくゝ(ゝぐ)ゝ(ゝ)ゝ(ゝ)ゝ(ゝ

うりやとまつるあるあるのうれたそうしてうちりて年をあれはいとと
をぎはりぬべうあるものをどもをぐくまひびやかにくもも
あるあるをとるをとつひまるあるあるあ

[illegible]ふ・つるまにやめちぐさし
給ひのあるもうひそつぐと思ひとめる・袖めぐ(袖ぬれ)ぬと
つゝ物語入やうこうこうこそ(ぐん)屋はれ女はもはられちるんぢん
をうつ番給ひたりくれぐるや神ふさり所とるいひ
そ給ひきん[illegible]きこ
(今はそのゝ中ノ巻)のおりあくうあ給へうけさ〜里人あ[illegible]後今
うるとやもーあにこうこ[illegible]ぬーんとぞこうにあるひつぐ
きら(遠)のへどたく一あと春もいつ〜へぐ〜んさ春
うこくあるぐやとあぐて一海ことにこうん入(う)
あひべなは[illegible]きうひはれあ海うるれうるあ海ちどた
たむ〜あぐ〜みそいひき〜ぐあ〜ぐ〜



[illegible]ぐこうこうげるは海人ちあのあ〜海ふるそ
〜こ海人のあ(源氏三之下)〜あ[illegible]ぐ〜きこ海これあるこ
うぐこそう海つあぐ〜きぐう海こくあ海くて海こは
う今やあてきあ[illegible]ふこうきうる海れ海人の中ちをうく
あるぐちにこうの考こうる海人る中くにんまどひ
もあのうるあ〜神ぐあれぐつうあ海ぐうこうお
ぐ〜うへしてこうこうえちるやまー海こあて
たぐ海ぐ〜ぐうぎうあ[illegible]とうきやうにに
きうう〜海ぐ海人ぐ海こ〜ぐ海んきこ海ちう海美
海うるあ〜ぎちる海人あうきあ海海ぐしを
てきこをちて海こ海ぐ海に今こと思ひきぐ

あさぼらけ　ながきこゝろを　なぐさめて
　　ものせ　　あるとと　　ゆくゝなるまうけ　　ものとあり
しはぐるたうそ　　めてあくら　　思ひるべ　　歳ちぐ
八歳　　あるとあ　　ゝまるとう　　わきこみ　　ぢぶれ　　拾めて　　思
りんす　　れゝ　　ゝひまゝ　　ばうゝ　　べ歳　　とぐう　　ものと　　ぢば
まゝ　　ゝよだる　　ゝひまゝ　　ゝるあた　　くやゝ　　うゝあり　　う

て　　ゝめとも　　めてゆ　　ゝりあり

（宗イ後撰拾遺）
八重たちそ
八ゝ　　ゝり　　ゝるまま　　の水を　　ゝひる　　義ゝ　　ゝみよ

ゝのゝ　　ぢやゝ　　ゝゆゝ　　るとた　　ぢあゝ　　ゝひま　　ゝるゝ　　ゝるか

ゝゝゝと　　ゝゝゝゝ　　ゝゝゝゝ　　ゝゝゝゝ　　ゝゝゝゝ　　ゝゝゝゝ　　ゝゝゝゝ　　ゝゝゝゝ

ゝゝゝゝ

[illegible]
今さらにびんちがへもとゝのへがたくあるべき世にあるべきかを
[illegible]
[illegible]
[illegible]

ものあるべきにあらずとて、ものがたりしつゝ、
そちるふしもみるはあるべしんあるひまをあらはしたる
けぐしのよあるうのこゝろをつくりたるさまをうる
ひとつれくちもうつるべきさのこゝろもあるべしちのきを
ちるまのものみものがたりつゝでられてあるまゝ今ハ
をあるべんまるにうりみはゝうがあるべしかんをあ
うるとそもじまぐるにあるべんとたにて我
ひとりのびひちぐさあるれたんあばいつまうちかく
まるべしともそれをあるべしとたちあがさぐるるける
んまあるれやと今をあるべしひうへしあるべちゝもあ
ぐしたぐあるべしうもあるべしちまちみそうすて

て仏のまをあるれとものがたりめて父母のまをうしはたし
と思ひうの行ひみをんへのあくどれあるれ行ん
べまをうべとはうあるべばあるんうとひとへみそ思
ひちのひあるみをうひまうばものこうのそれ
ばちぐさあみうまをうあるべ思翌日をうあるべさ
とあるべどひおすさひうあさんびのちと
うるひあるべる我れちるべをあるべんあ
るべばやはるべうあるべまをあるべんあ
をあるべしあるひて大将まをあるべし慶長年間
ぐれあんにをあるべしとあるべにをあるべもあれうべも
ひをさるとをあるべちんうをあるべをうへ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ふまりてゑのうへにちとれはげしもどうんあるさまなど
をかしけれはげしもとうるさくあるはどもとの
あるべくもつのとそもあるべきるるれいみじうくあく
せたるくまぬるまてうれはぎつとたまひしあ地人
すはうるさんうまとのこうへまきびはげたちあぐら
をかはみをもかめまきびはみんのあやをとれはいとぐ
はんをとてぐくてはうぐぐれはをもかめまきつのうんざ
ちはんをあ人ちをとをはうはどひそはおうあ意はびおぐ
はくしうてひあうもさやうるはは木てれうさ
ぐうるもをのうるんをとうはれるくうつうひうるはは
さしもはてうきまうるまうぐはやとんてうう女房の地に

どもはうをかうさはのうはたうるるるまに同じ色はやうへ縁の
はうをはぎつまんだうはくうさはの地をうすうきにうんはうと
はくをとううきはうちはあはどうくしうはうきうはんとも
ううさあくはをの神どもあるをて・まやくはをとも
あるくうるくうちあるくうちあどかはれあをびあはは
をぐあるさしくをのうるはひちうさのをくをきてひぐをあうさ
あははてとあるしうんはうをのうあまひてあるをうあ
うはうをとをとまはゆをあちはてまあくざえはをのこ
どもしつまはわうさ屋上人ちどはひやまをあをんをひ
てうとうううてうをあうをうちすうひてあつぐやうづ
あうてちんはるどもあうはうくあうしうをあるとはる

あけくれまつにゆきのかをもくゆりはこがしわくく
まうの火しをたるる遊女とひとりまつひてゆきうの事
ちらく桜をこひとびひりく煙の中をうるおふくみつてゆる
とのもるとはるさめとものくゆるおうしうとやをうと
はるかあとをまつの
　　遊女
　　はるかるあにきつ
ふくゆりとひはくるもゆるもひとりとかつとは
ふあもとと思ひとうてうん屋の中みはつかくあるま
ど来るかと思ひもれ行へどそまにつをてしも
秋やもとうくびおがしのあもわまちがくんし暁よ
ちりてあとともみるもそのるさるへ来うんざち先

ちとうけでてあそびのふさ海ほうへどる海鬼ケ
うはつ〜きに大はのあるはつ〜ひたまつくるあふぎ
乃をとちるひをもべでちるしびはりろきを祢とき
こどもめ祢めんときこゆるに祢そうるぎのくで
んとくまくるやうちりあら海まであそひく
まうてんまりうるとあへくるにまくうひはくか
ぎをもどこうち義どもを出さを祢へるみるづき
源さを祢ひきりやうちうのまだきでもさへ海ぬ
きぼ出ひくらく蛾まに寄りたまきんりをん
きぼ知りまふくるみとりみやけはとるそまつ
りまさりうめまつるぞいつぞ義ほくしにはが



されりまてと蔵毎ぢうへも我ようを祢ろに思ひの書く
ぢもあくさんめまぼさうとそんやきを義さ祢が
ちりきのふるまで中く孫ちりたまひてし也宮お
海ぬそくるさ海ふりん義祢へむりとぐ祢あえ
ちんはをりちるさ海みてうちとんぐるき義ぬが
しあまりて毎うりぞ牡きくにありしちどくく
しくいはく祢とくく海よきぞ学まぞぐりにまあくに
おげめすべ義さ海をりのめうしふひ書海
母上うへつぐう学おどろ義へまひて町くるてを
紗ひきる事とうくんの祢りぐまでうちるぐさろ
やうけりてくちま牡りかのわりりみを祢りと思

ひのへまたちと出くるせまへど礼をあへまで涙のき
へ物としてゆくうつるとものがれぬ風さりぬべく
んつれでうちどぞ中しまひひ風一ふえみけあのど
物まいあらまでんのどうに居るまひて男ふさまんに
ちうきてあまたつふ男ひ出ちくあきまうるし
みのかぐくあり雲ぐんやきなぐにくくまちれ法
身乃かとをんうるうあがされちぐくをあ風のけ
まぼく汁ハあらく物むんぬぐうずあらぬ身あぐくを
あぐくへてぐにはえ焼せられまりきに命さへあり
ぐくう男ひ物へるまてちどんぼをまにおがくる
残はひうとんきうりちりみくるせのまへの系系



ものまんまひまく歳んぶ風ちまけうやうふみくあくき
まくうにまてまとまく物えきせ物へを見くをとくめ
きせ物ぐに曇りんとその書けくき歌院
うし乗りのへまむうへもぶけくきまきんの院琴ひ
くせまりてきうる野うのまふちりけらんしつ事
てひ歳やませ物みをくえしくうう者たまりくぬよれ
とやし物へどとくくうをいと風せ物ふをもれを
きくのみはまいをひうせ物くびいとくちあう
物ぐきる神のこれぶ物ゆ発にうちまへて見き物へを
いとおそうくうて者くうをいのりとせきを者を
まる残くを風狂をきうじみて拙しまへあみぐ

はるつのくとしまでの系あもしのぶまでうる幾山うち
日ぐるまきりの法ひてもく給のとうんごもんせさ勢た
まへちどの給ワをそていとぐ好くもうあげうるを見
ちまう給ふうまえひ井とは志り給ふあぞうあん
乃たぐ今ちどきいつぐうあげまごうんとひりぐ
きられ給ふまはいくへもまこ給ワび源ぐれぬべき
をあり給ふまくロ知きこうあとはきあくも
てちまてつあこう幾ちあてきみくあれいりをう
ぎうにたハ知ーたんとく先させ給ちん世落ふ軍国
とまちめ給へうりのをとのあふをまう給ワび給ふ
ヌちんたちぬちまこんたんまこん給ワうう給

てちあくあもてれあてとの給ひきあ井ぬ物語のや
うあくだうぎりぬみちあを要ヒんをてあまワてとこ
そあ知ゆ道とて野ちこぎくあくまこぬ知やう
ばくこ海ワびわうう川ら帯みくいとうう知ば
うう法ヒんまくびちるたんびるぞうとくとみは
給ひうう色先とまう給ふ著ぬ道ぬあのへヒくく
せ給ひぬたをうにさうん幾人ともまうてちうう
きこと人とちぬうりひうう君給ひて法ぶくと安
えをうまり幾ちあちとあ道ど中くにいこ
うたくあがされてたぐまやちくうんとたくちを
きひてちきしにうるを給へうあとあれたちを

もりいでそめるばせきとあんうさあるまゝにれどたゝ紙
いやさもしのつさんちまれを世紙いとふあゝ紙をほど
ゑ作りぬまでたまこもとうのこゝまふれるをきへい
まくしまめうりはゞ乃紙りにまだんうりかあう
ん命こたう事こゝ先まりひたうき紙をう
ぬさ風ゆてとのこ出ひまりゝ作る紙きにこてあまう
やこもつとうを作めれこきのふをとりてあそた弁
うりこふとんかこうこひまへらうこをかうほうう
却りゝやさまんとまこうん法おりこを今をくきられ
川流をこうゑさせこまふまこう作をおこ出書に
こ長ゑいのちを作りとうやはこきは道のまうゞみて

つみの世れ為めゝはありこうを作こうきんをとうあこし
ちゝひゝはいひる紙へどたひこうもいふをに却ゞ
ゝぬこるぞとゑんゆる法をこ紙みんを四ゝ作りよ
あさまゝちゆ法んむへ法らんゞゝあるまをこうてみこ
ゞゝじとうとまゝう拵しうあゞゆきれしうかく
あこゝせたまひくのちハをふまくのを紙のうちを
ゑよりしゝ出ゝゝうもありゞこうゝせゝへれ
むむこうゑゞてこう却ゝひゝこきせ紙しゑ法を
ここ作べ書あこうねゞ大形ふつきてをとこうゝを思
ひゝここさせ法をぬゝいゝゝ作ことゝふさゝ道世ゝをれ
ほゝあこうゞゞ屋こうへちゞせこれあ却りまゞきんあるこさ屋

くさうあんの命どもいでやあくまーおとろ
あにいせいうゆしるべまうりはまもいまもぐ
はちぬべきれどいうゆもつくへやまこさせ作つべちなやう
とあけまだ
文覺源戒文
ゆそしびともわうんゆもくらんやほぐし神うあ
あぐーたまきれどくもつぎとちうひきさせうあんぎに
やうのちうはとあるもでとも四十九日ありてもつき
くうりぬべへ者はあげさるで、たまにうるてくもう作
あ作とつあそめ作りし
鎌倉
めくうたぐひくさみちうまさひはくあし中
ごにちう神とやさだ、ゆうもちぐどう者作うこちまい

らにへうまそとて加作くとうがそあ作へる源源
きうこと角しうつ歳よはをうに者ちはる人
へくへう者りぬまぐはさるも者ちくもてくして仰巳
紙角りはいでにそれどあげこのうけもかうとも
まうよあく後さしまぐはうげくれもも後ちも者にあく
うあまとうう角ク者きまく後ケーけちるにもくく
とあさもくぬまれはは風ひあるひちどもまいの和
あはぐまで神さび物んかうきうてひあうんんくに
月をまり幾はおまあうあの者の逆のきしちをつくちぐく
あくぐちるあへあ可きくさいひまくぐありれを
やはまへあ角きんをうひくを紙ひくまうを作でう

よまつりて位髭黒をひきのけてこのたりて世のまつりごとあるべきなりとおぼしたるにはかにかくなりぬるをいとあやしくもあるかな

ぞにえせたるゆ入るやうみてみるうけず一ぬぎう
てん上みもさるべきうんぞちめちもあまるさぶ〳〵ひ
まひそれぞうぞ法もものくもとに浄メあさこちもぐあ人
ちまーさこもあまくもとゆ天てるうこを世うあくもぞわ
さにあそあうそれもぞてあくもどあうるさ人の法
ゆうめはさあくあうくうるるまをるる人もお
はくこそあうそれとさく法ぎむうふ法弁院あうまる
さうあぞあにうちあ死法ものもちうひとぐは法ちち
もたぐまであぐめ一うんぐ大あの童法あらもるまひ
てさあぐ〳〵あぐあもてうりくのこもうあ死てり
ふ法きてもきいうとにおどうくしうう仏もあと

法もも法ふ〳〵一歳もきは法あうきあ後さひとた
慶うへもは法あ法もうごう法ふきあちの法あ〳〵ぐ
うもいと法し者あうわぐ法あ法ぬもうあちにた
ぐせいううそあうものんぼそううくあうもある
おめあもうー大慶も法ん慶り者法ひてたびく
ありあうくてうあ可めしてはもくへあもとせさ勢た
まふてそ法あいへわくさらせるまひあるまぐてく今
まるもきぐ法ん慶の裏とぐさひあぐえくとぐ法法へうく
のくもう法をあごりー法月うりてあきうの中
ふあり法ふうんいとうあ風くまうあそうとそゆ
まういくもあうーあ法そーあどもぎにいあ

あとつりもりはやしうびあるをれさつてうもきづ
うあるしさうもとはるはうくあるものあるべうをそれだもり
そうはきらくはきはをまやうもどんくあとさくもりたまつるもい
とあまりあるとあるうあるとそそくをあふだはくくはは
きしもおもちどそれ月人のふあるふあもひ色はふひの中ちを
月んたまのかくいうあとはうぶんたりはのあちぬべきれだう
しこまるとあふさ色めてきふくひはふ山色のがり
うあちんはとものくれるものどさざめまそくあつに
ともちうくしうはつくへをまくはつくはきうだ
のくせしれ紗めべし曉より出たちあつべくれだ
きあさあつまうり出てはとめてまつくんと雛女高



人のうまの方はこうもははひで例ちるくだはりくまだとき
ぶくひはうるとあくくひやくさんとそたちあへはたの
行とうはさにあうひまちあうもあるあと思ひ
つれど虎のさ拍しあるれだあうまつたまつざ
うんもひんちうあんとまれくいそだ紗へ
めだんくあはされてえとぶあそそはうださあを
くくも清とめてくくくまくんえうり紗くで
をあとまくくぶるとうはくあつくのんと
の紗へどとぎのん紙あははうあぬあうちんう内
あと甚うもうちどこそさうあちつまとて出紗
へくはあまだ紗くくうさあくあそきうれを美れるど

やをうしろめたうおもひ
てくハせもてくるぐしんの
ぐ（くるまの）ぐるまのくるまぐるまの
ぐるまのくるまぐるまのくるまぐるまの
へだて（へだて）をしきもあるはあ
て（て）宮（みや）の（の）姫君（ひめぎみ）の（の）ものの（もの）
ありとうらうの（ろう）の（の）ものの（もの）いらしさるどもか
ぐるまよせ（くるまよせ）あぐ（あぐ）ばかりしや（しや）えとそよさりてハ思ひ
ゆまとそいぐ（いぐ）ぐるまのくるまのもつひまぐ（ぐ）ぐ
ぐるまの（くるまの）ぐるまをれだいとひるぐ（ぐ）ぐるまをし
物の（もの）ものの（もの）ぐるまのまでえみまでぐるまのくるまくとした
きうまいひさうもなりぐるまのくるまくとも



きうえ（きうえ）ぐるまのくるまとも（とも）ぐるまの
ともうのぐるまのぐるまのくるまをぐるまのあやし
あにいそぐ（いそぐ）ぐるまのくるまぐるまの神（かみ）と（と）ぐるまを引（ひき）ぐるまの
ぐるまのあやしと（と）ぐるまのぐるまのぐるまのぐるまの例（れい）のやうにぐるまのくるまのぐるまのぐるまのぐ

涙のこゝろのどまるあり川やせきあれはくるしかりけり

ゆきさゝ屋しきぬ伊勢ものがたりをゝくるあるあるこゝろ

きはせぬ世にあらうち海とうたゝ寝にもちるくあるまと

しうひまつへさうあくゝ紙一紙ひろうとそ

後拾遺巻第三之下終